



教会の見える風景

(佐々木 英樹氏・昭和34年卒)

# 夕陽

函館市支部会報

発行所  
夕陽会 函館市支部  
函館市立あさひ小学校  
印刷 (株)島本印刷



## 学ぶ教師に 学ぶ子どもが育つ

夕陽会函館市支部 副支部長 八木 裕  
(昭和五十三年卒)

昨年の五月十三日、平成十八年度新

会員・幹事懇親会の席で、大先輩である顧問の山尾 正先生が新採用の方々に前に「学ぶ教師に学ぶ子どもが育つ」とお話しされたのを聞きした。まさしくその通りであると強く感じるとともに、若い教師だけではなく、自分も含め、中堅もベテランの先生も、この言葉の意味をもう一度初心に戻ってかみ締めなければならぬと深く感じた次第であります。

今、教育の流れは大きな変革の時期を迎え、そのスピードはこれまでにないものがあります。

そうした中で、私たち教育に携わる者が真剣に「学び」の姿勢をもつことが求められています。

教育センターにおいても、初任の方や十年経験者の方々を対象として、様々な研修が行われておりますが、授業中の研修はもちろんのこと、夏季・冬季の休業中の研修など、休む暇なく研さんを積み上げている先生方の姿を拝見するたびに、「学ぶ教師に学ぶ子どもが育つのだな」と改めて感じているところであります。

さて、国では、教育基本法の改正をはじめとして、学習指導要領の改訂作業を進めようとしております。その中で、全国レベルでの研究会の中では、「社会的な自立」、「職業的な自立」を重視するとして、学校教育の社会化、義務教育の国際化という二つのキーワード

ードがうたわれております。

「学校教育の社会化」とは、学校があるいはそこで行われる学校教育が、今よりもっと社会的な生活、外とつながるような生活、言い換えると、学校で学習する内容や身に付ける力が、そこだけで終わるというイメージではなく、一つの教科が他の教科にも生きて働く、小学校三年生で身に付けた力が中学生や義務教育が終わった後にもつながっているという実感をも、先生も子どもも持っているような教育のイメージをいいます。

また、「義務教育の国際化」とは、まさしく国際的な学力調査の結果を受け、例えば、九年間で身に付けなければならぬ力、義務教育を終えたら、国際的に通用する学力がどれだけ身に付いているかを、世界共通の物差しに当てて、それで見えていくことが必要であるという流れであります。

こうした大きな考え方を、次の学習指導要領の中に組み込んでくることになるのですが、今後、当然、こうした流れの中で、各学校では、教育課程はもろろんのこと、指導レベルでの研究が盛んに行われることが予想されます。

山尾先生のお言葉どおり、今まで以上に「学び」を深め、子どもたちの健全やかな成長に貢献していきたいものです。



よろこびの言葉

余白の人生をより豊かに



中村 薫 (朝山) (昭和三十年卒)

このたび、思いがけなく、白鳳章の栄に浴しました。夕陽会、同窓の方々より温かなお祝いの言葉をいただき、誠に有難く思っております。

学芸大学卒業後、東洋大学三年編入試験を受け合格、故太田鶴堂先生のお力添えもあり、故金子鶴亭先生に入門、二年間研さんに励んでいた矢先、父より東京本社に転勤することになったので、急ぎよ帰ってきてほしいとの連絡を受け、三日後の北海道教職員採用試験を受けることとあいなつた。当時はもう既に、都立品川高校に就職がきまつていたのである。

北海道教職員採用は二百名、うち、市採用十名となつていた。筆記試験と口頭試問の成績次第である。落ちればいいなという気持ちで臨んだのが、小生の人生の大きな転機になるとは思いもよらなかつたのである。

当時のモデルスクール新川中学校教諭に補するとあいなり、「教育の道一筋、三十八年」山あり、谷あり、波瀾万丈の三十八年。よくぞ、勤めあげることができたと思う。

この間、書の道は現状維持をたもてるよう心がけ、教育の道一筋にまい進してきた。

公域人事第一号による上磯町立石別中学校六年間、その後は千代ヶ岳小三年、的場中学校八年、本通中学校四年、亀田中学校十年と、転勤するたびに、

公開授業を任せられたのである。

特に小生の心に残っている授業は、本通中学校着任早々三年生の担任を任せられ、北海道道徳研究公開授業、函館市特活研究公開授業であった。その間、並行して生徒指導に携わり辛酸をなめつつ三十年間続けたのである。

亀田中学校では、八年間初めて文化部所属として余生を送らせていただいたのである。

退職後、私はご縁があつて書道講師として、函館水産高校に勤務して早や十二年目となる。

私を励まし、支え、「活躍の場」「時」を与えてくれた先輩、同僚、後輩にあつたため感謝とお礼の言葉を申し上げる次第です。

退職後は、小生の書道の遅れをとりもどすため日夜研さん努力しながら今日に至つており、また好きな短歌にもアララギに所属しながら精を出している現在です。

毎年、丸井今井デパートのギャラリで十二年間にわたり諸行事をこなしてきており、書道界の激しく変化するなか、仲間と共に手を携えながら書道の本質に迫るべく、信念と愛情をもつて頑張つていきたいと念じている今日のごろです。

今後の余白の人生を感謝と真心を持つてこれからの方々に報いる生き方をしなければと考へております。多謝。



尾 畠 悌 介 (昭和三十四年卒)

このたびの日本バレーボール協会功労者表彰の受賞に際し、夕陽会本部の川島会長や伊藤函館市支部長より、お祝いの言葉や祝電をいただき大いに恐縮しているところでございます。

表彰式は昨年六月三十日、代々木国立競技場に隣接する岸記念体育館でありました。日本協会の立木会長が直接私の大型で長文の表彰状全文を読み上げてくださり、他都府県の受賞者は以下同文で授与されるという栄に浴しました。

その後、推薦母体である北海道バレーボール協会から、「七月九日の道協会理事会で伝達式を行うので表彰状を持参して指定のホテルまで来るように」という文書が入つたので出札した。中川利若会長をはじめ役員の方々が喜んでくださり祝賀会まで催していただいた。

私がバレーボールを指導するようになった契機は「授業を通してだけの接触では生徒の表面より把握することができない。放課後の部活動で肌と肌の触れあいがある」と彼らを理解することが出来る」と最初の勤務校で感じたからである。以来四十五年余り、七十歳を過ぎた現在でもまだ子どもたちを指導している。教頭時代も所属校長の許可を得て時間外の指導をし、松前清部小でも戸倉中でも全国大会に駒を進めることができた。

「あの先生はバレーよりできない」と言われるのが嫌で、夜中に起きて教材研究や校務分掌のガリ切りをした。

二重の喜びを味わつて

社会科のサークル活動にも積極的に参加し研究部長も務めさせていただいた。その後遺症なのか今でも夜中に必ず眼を覚ます。

今年度は二重の喜びに輝いた。それは私の歴任校の教え子たちで結成する「函館尾畠クラブ」が十月のスーパーナイン全道大会で優勝し、十二月十四日から十七日まで神奈川県開催の全国大会に駒を進めることができたからである。

「全国大会出場の夢にもう一度挑戦」しようとして三年前から週に一・二度練習を開始した。一年目と二年目は準決勝や決勝で敗れた。しかし、主流選手は四十歳に達し加齢と共に体力が衰えていくので、全国出場の夢は今年で返上しようとして全道大会に臨んだ。決勝では若さとパワーに優れる帯広市役所に一セットを先勝された。二・三セット目は私の監督采配が的中して、一枚も二枚も上の相手を倒してしまつた。全国大会は首都圏に住む高校体育教師などもエントリーして楽しんできた。合を戦つた。敗れた後の懇親会には数十名の教え子たちが参加し美酒を酌み交わすという教師冥利を味わつた。

このたびの日本協会功労賞の受賞は函館バレーボール協会の役員と全バレーボールを代表して私がいただいたものである。これまで支えてくださったバレー関係者、夕陽会函館市支部の皆様様に深甚なる敬意を表しお礼の言葉といたします。



巡り合わせ

金山正智 (昭和三十五年卒)

このたびの平成十八年函館市功労者表彰受賞にあたりまして、夕陽会の皆様方からたくさんのお祝いを寄せていただきました。心からお礼申し上げます。

取り上げていただいたのは函館市教育長として勤めてきた三期十二年間の仕事であります。果たしてこの賞に値する月日であったのか、忸怩たる思いでこれまでの時間を振り返っております。

同時に、この十二年間は、幸運としかいいようのない、実にありがたい「時」の巡り合わせが重なっていたことに思いが至ります。

まず第一は、教育の現場から無用な対立や不毛な論争の気配が薄れていた時期に職に在ったことであります。

北海道の教育界の動向がそうした方向を生み出していったものと思いますが、同時に、教育の現場も、日々の厳しく苦しい指導の体験を積み重ねる中から、地に足を据えた「子供から出発する」論議が大切にされる風潮がようやく定着していったように思われます。対立から親和への道筋が見えてきた時期でした。

二つめには、時代の変革期、教育の改変期のただ中であって、多くの方々との函館の新しい教育やまちの有り様についていろいろ考えを巡らす、得難い時期に巡り合わせたことであります。

市立東・北高校の統合、図書館・芸術ホール等の建設、伝統的建造物の保存と市民生活との関連など、いずれを

とつても関わる多くの方の創意と知恵、意欲的な議論がなくは、推進がかなわなかったことであります。

そして三つ目には、夕陽会の会員の皆様方が、函館市の様々な分野において、その中核になって活躍されている時に巡り合わせたことであります。

芸術活動、スポーツ指導、地域の文化支援活動など、会員一人一人の活躍の姿をたどってみますと、函館市の教育、文化、スポーツの輪郭が鮮明に浮き上がってくる、そんな状況に今あることを誇らしく思います。同時に、人を育て文化を創り上げる夕陽会の大きな力を常に身近に感ずることができたことは、私にとつて誠に力強く、ありがたきことであります。

改めて夕陽会の皆様方の変なお力添え、ご支援、ご厚情に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

最後に気がかりなことを述べます。最近母校函館大の教育系指導教官が多数離職されることが報じられました。

このことで函館の文化・スポーツにいかなる影響があるのか、懸念を強めております。教員養成課程が無くなることによつてこうした変化がこれからは生じてこようとは思いますが、大学と地域との結びつきを新たな形で考えるよい機会のようにも思います。母校が多くの課題を乗り越え更に発展されることを祈っております。



人の支え、結び付きに感謝して

沼崎孝男 (昭和四十四年卒)

このたび、多くの皆様のお力添えにより、北海道教育功績者として、十二月の表彰式に出席させていただきました。

時が過ぎるまま当日を迎えました。北海道教育委員会や函館市教育委員会を代表する方々、北海道副知事、各種校長会長などご臨席の前で橋場教育委員長から表彰状をいただき、身の引き締まる思いをいたしました。

元より、教職にかかわる仕事は、個人の力だけで成し遂げられるものではありません。校内の授業や学級経営、分掌された校務や部活動指導などのすべてが、互いの支え合いにより成りたつていくものです。校外のサークル活動や研究活動、校長会・教頭会などに関係する業務も、人と人の結び付きが、大きな力を発揮させてくれるのだと思います。

すべての人に道があるように、私の教職人生のスタートは、千歳市の小学校から始まりました。当時の校長から、文部省の指導書を購入するよう指導を受け、教務の先生は私一人のために指導案を書き、授業を見せてくれました。

六年生を卒業させた三か月後に赴任した函館市の中学校では、同教科の教頭先生が、学級再編成前の一学期のすべての授業を私に見せてくれました。

校内研究の担当者は目指す授業を自ら公開して提案し、学校が取り組んだ学級づくりの手法や班ノートの交換は、教師として生きる基礎を築いてくれました。

函館市では六つの中学校に勤務し、学級経営や部活動指導などに燃えた時代、教科サークルの研究会や全道大会での授業公開、教育センターの研究員や講座の担当者として、また、道立教育研究所の長期研修員として、研究・研修活動に集中した時代もありました。

教頭や校長になつてからも、研究部への所属が長く、全国大会、全道大会などで提言する機会もいただきました。

大きな変化があつたのは、校長として最初に着任した小学校で、隣の幼稚園長が兼務であつたことです。二十数年ぶりの小学校勤務に加え、自分をありのままに表現・行動する園児の前で入園式、卒園式などの挨拶をすることは、何よりも緊張感を持って取り組んだものでした。着任地では、文部省「環境教育推進モデル市町村」、渡島管内一幼稚園教育公開研究会の業務等担当する中で、環境学習の基本、幼稚園教育要領など学ぶ幅を広げることになりました。

同じ繰り返しを好まない私にとつて、幼稚園、小学校、中学校に勤務してきた三十八年間は、予想にもなかつた新鮮な出会いや学びの連続になりました。

今、身に余る評価をいただき、改めて、渡島管内・函館市の教育活動の成果の上に立っていることを強く感じ、みなさまに心からのお礼と感謝を申し上げます。



出会い・巡り合いに感謝して

松谷 秀彦 (昭和四十三年卒)

このたびは、はからずも函館市立学校教職員表彰受賞の栄に浴しました。

私にとってこの受賞は、三十八年間の教職生活の場(日高・渡島・函館市)であつたはずの地にあつても、豊かな自然の中で、伸び伸び育つ子供たち、常に夢とロマンを語り、その実現のためにも汗した仲間たち、そしていつも愛郷愛校の心で子供たちを見守り続けていただいた地域の人々に囲まれ、支えられ、生かされてきたお陰です。

諸先輩・同僚・後輩等、多くの方々の「出会い・巡り合い」があつてのことです。そのことによって、曲がりなりにも教育の正道を歩むことができました。深く感謝申し上げます。

函館市には、教諭・教頭・校長として二十一年間お世話になりました。その時々、多くの方々との出会い、巡り合いが私の人生を決定づけることとなりました。

教師としてスタートしたのは、日高管内です。十四年間「理科屋」として、身近にある自然を理科教育に取り入れようと、授業に生かす地域自然教材の開発、工夫に没頭した時代を過ごしました。

しかし、函館市への転勤を機に、尊敬する先輩や学生時代の音楽仲間との再会がきっかけで、いつの間にか音楽の世界(小学校音楽研究会・小学校スクールバンド連盟・吹奏楽連盟)に強引に引きずり込まれました。それから

というもの常に夢とロマンを語り、それを実現していく仲間の姿に感動し、学び続けることの大切さを教えていただきました。

各種演奏会、全道音楽研究大会での研究演奏、各種事業への参画等、いろいろな場で多くの貴重な体験を積み重ねることができ、教師として随分と鍛えられました。音楽を通しての人の関わりは、私の人生の転機であつたと思います。

夕陽会との関わりも忘れることができません。夕陽会創立八十周年記念事業委員会「夕陽讃歌」部に所属し、CD作製に関わらせていただいたことです。完成した音盤を手にした時の嬉しさは、今でも甦ってきます。

夕陽の心の讃歌が、二十一世紀への文化遺産として函館はもとより全国各地で永く愛唱されている現在、会員一人一人の心に刻まれていることを思えば喜びで一杯です。

この讃歌を仲間の深い絆とし人生の宝物としていけるような音盤を残さなければならぬ、という使命感に燃えていた当時の心意気が私の財産となりました。夕陽会の先輩はじめ同志の皆様との出会い、巡り合いの賜物と感謝し心からお礼申し上げます。

歴史と伝統のある夕陽会のみならずのご発展をご祈念申し上げます。



多くの出会いに感謝して

平野 優 (昭和四十三年卒)

このたびは、函館市立学校教職員表彰の栄誉を得ました。このようなご厚情あふれる表彰をいただきまして、心からお礼申し上げます。思えば三十八年間、ただ営々と勤めてきたにすぎない私が、はたして今回の表彰に値するものかどうか、少々恥ずかしい思いもいたしますが、今日あるのも皆様のおかげと感謝しております。

私は、母校「教育大学」が函館の地にあつたがために大学生活を経験することができました。青春を味わい、友を得、教師という職に就くこともできました。

世の中には数多くの仕事があり、人により考えの違ひがあり、はつきり二分はできませんが、お金を稼ぐ仕事、心を満たす仕事があるとします。

多くの人は、生きがい、やりがいという夢を持ちながらも、生活の糧を得るために職を選び働いています。心の満足は趣味など他に何かをすることで均衡をとる人もいます。有り難いことに私は、教職に就くことで、生活の糧を得る仕事と心を満たす仕事の両方を兼ねることができました。

また、私が竹のように折れずに勤め続けてこれたのは、竹が地中深く張りめぐらした根っこに支えられるように、上司、先輩、同僚からご指導を受けたこと。そして、保護者と生徒の皆さんに支えられてきたことにあります。このことにも感謝申し上げます。

教職最後の二年間を特殊学級設置校

長として事務局を担当し、自校での研修の他に、全道の研究大会にも出席し話をお聞きしました。長年特殊教育に携わってこられた先生は「自分の子や孫の、何事もない出産を神に感謝しました。」と。また、障がいを抱えた子を持つ親ごさんが、「いつそこの子と一緒にとの：思いから、今は神様がお前たちなら育てられると私の家族を選んでのだと思つています。」と。知的と言語の障がいのある子のお母さんは、「この子にはいつも笑顔よ、笑顔と言いつつ続いています。笑顔のある子なら、私たちが先に逝つても誰かが手を差し伸べてくれると思うからです。」と、お話になりました。

私はこの二年間で、障がいを抱えている子どもとその親ごさんには、苦悩の中からやさしさと強さを、指導と支援を毎日続けている先生方には、教育することの根っこを教えられるました。長年の普通学級の勤めで気づかなかつた深い学びを教えられました。

退職後は、時の流れを緩やかに感じるものと思いましたが、さにあらず、政治、経済も気象状況も激しい変化の中にあります。これからは地域社会の一員として、今までの経験に頼るだけでなく、新しい息吹を感じ取る心がけで生活をしたしたいと思います。皆様には、今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 人との出会いを大切に…



函館市立中央小学校  
塩谷美鈴  
(平成九年卒)

平成十八年四月より、函館市立中央小学校に勤務しています。現在、三年生三十七名の明るく元気な子どもたちと一緒に楽しく過ごしています。

昨年度まで、期限付教諭として小学校に勤務させていただきましたが、これまで経験してきたことは、毎日の学校生活の中で、確実に生かされていることを実感しています。しかし、つい「こんなことわかつてる。」という気持ちになっていくことがあります。このことに気づかせてくれるのは、子どもたちです。子どもの目は、とてもまっすぐです。私よりもはるかに柔軟なものの方ができます。このまっすぐな目を大切にしていきたいと考えさせられる毎日です。

大学を卒業してから、私が教職の道をあきらめずに挑戦することができたのは、これまでに出会った多くの方々に支えられ、助けられてきたおかげです。本当にありがとうございます。また、職場の同僚や初任者研修の仲間との出会いも、私にとっての大きな自信になっています。私は、人と人との関わりは、とても大切だと思っています。このことは、これから子どもたちに伝えていくことだと考えています。子どもたちは、毎日少しずつ成長しています。小さな発見もあります。これらの小さな積み重ねを見逃さないように、同じ目線に立つて感じとっていきたいと思います。

「人との出会いを大切に、子どもの思いや気持ちを感じとれるような」教師になれるように、これからも子どもたちと一緒に過ごしながら、一歩ずつ進んでいきたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。

## 決意を新たに



函館市立旭岡小学校  
吉田真知子  
(平成十三年卒)

美しい函館の街と海、遠くは津軽を眺めることのできる旭岡小学校に勤務させていただき、早くも一年がたとうとしています。この一年は、担任する五年生の子どものたとえ楽しい毎日を送り、本当に充実していました。

私は、昨年度まで宮城県で教員をしておりましたが、結婚を機に退職し、この函館に戻ってきました。宮城では、初任校が全校児童三十名という僻地校でした。現任校に赴任した四月当初は児童数が多い中で、学級経営や授業の進め方など、これまでとの違いからとまどうこともありました。新しい環境に身をおいて、気がつくことが多くあり、教師としての自分の未熟さを知りました。そうした時に、先輩の先生方に相談することによって、自分のとるべき指導が明確になり、物事が円滑に進むようになりました。先輩方の温かいご指導・ご助言を本当に心強く思いました。

また、この一年間は、「子どもは教師をうつす鏡である」ことを痛感した一年でもありました。授業中、子供たちの反応が良くないと感じたときは、決まって教材研究を怠ってしまったりと感ずき、逆に教材研究を熱心に行い、自信をもって行う授業では、子どもたちは目を輝かせていました。自分ががんばれば、それだけ返ってくるものも大きいのだとあらためて実感しました。子どもたちの成長が一番の喜びです。

函館に来て一年がたとうとしています。これからも、子どもたちのために精一杯力を尽くしていきたいです。まずは、しっかりと授業ができるように、研修をしていこうと考えています。今後とも、ご指導よろしくお願ひします。

## 期限付で培った財産をもとに



函館市立深堀小学校  
野呂宜正  
(平成十四年卒)

早いもので、函館市立深堀小学校に正式に採用されて一年がたとうとしています。実際には、昨年度の十二月から期限付採用の期間を経ての一年四月ということですが、振り返ってみると、期限付で勤務していた期間と正式に採用された後では、私自身に課せられる責任がまったく違うものであると感じました。

期限付のときは、それまで担任されていた先生の実践を引き継ぎ、子どもたちに指導したり、関わっていったりと、まるでその先生のコピーを自分に貼り付けているようでした。その中に、少しずつ自分の色を出しながら、ある程度レベルが敷かれている中で実践に取り組んでいました。

しかし、四月になり正式に採用となると、全て私自身が担っていくということ、ゼロからの挑戦ということになりました。ここで、大学を卒業してすぐに担任をしていたのであれば、教師としての知識不足や焦りから、子どもたちに多大な混乱を与えていたのではないかと今になっては思い返すことがあります。

私は、期限付で出会った先輩教師たちの実践を学ぶ機会に恵まれ、その経験を生かしながら指導方法を考えることができました。

かつて『まねをすることは恥ずかしいことではない』と言われたことがあります。それでも、ただまねをするのでは、私自身の実践とはいえません。そのまねの中に私自身の考えを反映させながら実践しなければ、期限付でやってきたことと何ら変わりはありません。まねから自分のオリジナルへ。それをこれからの私の課題として、日々の研鑽に励みたいと思います。

飛躍を

子どもとともに、学ぶ姿勢を



函館市立青柳小学校  
池田 七穂  
(平成十八年卒)

昨年の四月に教師となり、もうじき一年がたとうとしていきます。何をするにも初めての事だらけ。毎日仕事に追われる中、教師という仕事の責任の重さや厳しさを感じることも、充実した思いを感じていきます。これは、同じ職場で働く先生方のご指導のおかげであるとともに、子どもたちの力であると思っています。

初めて受け持つ学級は一年生二十四名。子どもたち自身も初めての学校生活。「初任者といえども教師は教師。しっかりしなくては」と思い、毎日取り組んでいきますが、やはり思うようにはいきません。子どもといえども人間対人間ですので、色々な思いがあります。授業は、学習指導というよりはまずは生活指導。様々な場面での指導がありますが、「頭ごなしにはなく、ともに考える」ことを心がけています。こんな時、子どもたちに教えているつもりが、人として、教師として大切なことに気づかされることもあり、子どもたちの力に驚かされます。また、どんなに忙しくても、「先生」と呼ぶ子どもの姿を見ると、ついさつきまでの忙しさが余裕の気持ちに変わるので不思議です。子どもたちがどれだけ自分の支えになっているか、その偉大さを感じることも、教師とは、人と人がふれあう職業なのだとあらためて思います。教師という自覚をもつことも大切ですが、「子どもとふれあい、子どもとともに、子どもから学ぶ」この大切さを感じています。

もうじき、教師二年目です。これからは、一年目以上に教師としての仕事に追われることもあると思います。今年学んだ思いを忘れずに、子どもたちとともに、温かい教師を目指していきたいと思いません。

小さな積み重ねが大きな成長へ



函館市立桔梗中学校  
太田 竜也  
(平成十八年卒)

四月から教壇に立ち、早くも一年が過ぎようとしています。この一年は、私にとって何もかもが初めての経験であり、戸惑いや失敗も数多くありました。教科においては、基礎・基本の定着を目指した教材研究に追われ、また部活動においても、私自身の経験の少なかつたバスケットボールについて、ルールや基本的な動きを学ぶことから始まり、大変さを感じました。しかし、その中にもやりがいを感じ、充実した日々を送ってきたことは事実です。

このように充実した日々を送ることができたのは、夕陽会をはじめとする諸先生方の温かい支えや、生徒たちの元気な声のお陰だと考えています。諸先生方からの適切なご指導・ご支援は私の血肉となり、今後の大きな支えになると考えています。また、生徒たちの元気な声を聞いたり、明るい表情を見たりすることにより、私も「頑張らなければ」という気持ちになり、大きな励みになりました。地道な苦勞を重ねる程、生徒たちと接する喜びや、ともに様々なことを成し遂げた時の満足感を得ることができると感じています。

支えられた一年



函館市立戸倉中学校  
坂本 奈央美  
(平成十八年卒)

これからどんな子どもたちと出逢うのだろうと、期待と不安でいっぱいだった四月。夢が実現して、三年生の副担任として新しい生活が始まりました。今振り返ってみると、一日として同じ日はなく毎日笑ったり、怒ったりしながら駆け足でここまでやってきたような気がします。

素直で一生涯懸命な生徒たちと過ごす毎日、とても貴重な時間の連続です。特に、授業では教師という職責の重さを日々実感します。公開授業に取り組んだ際には、たくさんの先生方に授業を参観していただき、自分の授業を見直すよい機会になりました。今後は、全ての生徒を国語好きにすることを目標にして、研修に励んでいきたいと思えます。また、体育祭や文化祭などの行事では、生徒とともに準備や練習を重ね、成し遂げたときの感動は何事にも代え難いものでした。

しかし、楽しいことばかりではなく、辛いこともありました。事前に準備を重ね、よかれと思ってしたこと、結果的には生徒の心に伝わっておらず、自分の未熟さにもどかしい気持ちになることもたびたびありました。それでもここまでやってこれたのは、たくさんの先生方に支えていただいたから、そして何より子どもが好きだからだと思います。

この一年間を振り返ってみると、子どもたちから、そして周りの先生方から支えられ、学んだことがたくさんあります。これからも、初めて教壇に立った日の気持ちを忘れることなく、新しいことに挑戦し続け、成長していきたいと思いません。

私には、教師として身につけなければならないことがまだまだあると感じています。教師として自身に満足できず、この先思い悩むことも多々あるでしょう。しかし、理想に近づけるように努力を蓄積し、生徒としっかりと向き合っていくつもりです。生徒たちを見ても、四月に比べて「成長したな」と感じる場面が多く見られました。私も、「小さな積み重ねが大きな成長となる」ことを信じ、広い視野をもって粘り強く、教師力を高めていくことを心新たに決意しています。

# 学校・職場紹介

## 函館市立昭和小学校



本校では、開校以来四十年以上が経過した校舎の老朽化が激しかったため、新校舎の建設を進めておりました。昨年七月に完成し、一学期から使用を始まりました。子どもたちはピカピカの校舎で、毎日、じっく、しっく、のびのびと学校生活を送っています。そんな昭和小を支える、会員をご紹介します。

### ■会員紹介

#### 亀谷 幸夫 (昭和四十六年卒)

今年度着任した昭和小のスクーリリーダーである。また、今年十月に本校を会場として開催される全道社会科研究大会の運営委員長として、そのリーダーシップを発揮している。職場では

スタイリッシュな立ち振る舞いで、職員はもちろん、保護者や子どもたちからも絶大な人気を博している。

**鳴海 裕 (昭和五十四年卒)**  
市教委指導室から中央小を経て本校一年目。新・旧校舎の始末、移転の先頭に立ち知恵と汗を出す。体育会系とは思えないソフトな人当たりと、飲むほどに冴え渡る軽妙な語り口で、正に職員室の要としての重責を果たしている。職場も現役バリバリのオールラウンドプレイヤー。

**堂前 智子 (昭和五十八年卒)**  
昨年の四月に昭和小学校に来て、もう一年が過ぎようとしています。現在、元気がかわいらしい一年生を担任しております。子どもたちからは、「ドンマイ先生」と呼ばれ、何事にもへこたれずに毎日を過ごしています。昭和の風にも慣れ、今年さらにはパワーアップの予感。

**福田 実 (昭和六十二年卒)**  
いつも笑顔の素敵な実先生は、昭和小一年団の心のオアシスです。  
④こった顔は見せないで、⑦かかる優しく子どもを指導。②ごとに進んで引き受けて。先生なしでは③ごせない一年団です。

**小林 代志子 (昭和四十五年卒)**  
いつも若々しく、はつらつとしたその姿。二年生のパワーにも負けない元気。周りを明るくするその笑い声。人生の先輩としてお手本となる先生です。合唱指導では、とてもまねできないすばらしいものがあります。

**木村 順子 (昭和五十五年卒)**  
英語科を卒業し、新卒の二年間を余市の中学校で過ごし、その後小学一年筋で今日に至っています。語学のみならず、音楽も堪能で、歌ってよし、ピアノを弾いてもよしの順子先生です。高校生のお子さんがいるとは思えぬ若々しさで、我が昭和小をガッチリ支えている一人です。

**西館 純 (昭和六十三年卒)**  
「昭和小のミッキー」として子どもたちに大人気の、とても多芸多趣味な

先生です。繊細な絵描きさんのはずが、マット運動でマッコヨを披露したり、「昭和小のドクターPC」として東奔西走したりしています。酒とWi-Fiと〇〇をこよなく愛す愛しのミッキーです。

**小田桐 郁子 (昭和五十一年卒)**  
四月に赴任していらした小田桐先生。学校に慣れる間もなく、新校舎への引っ越し等もバリバリこなして、学年もグイグイ引っ張ってくれています。体育会系のソリで「小田桐ねっさん」と呼ばれ、その姿は、飲み会の時にも大きな花を咲かせています。

**柿崎 雄二 (昭和六十二年卒)**  
「気は優しく力持ち」そんな言葉がピッタリである。誰に対しても穏やかで、児童の気持は絶大である。内に秘めた情熱は熱く、給食を食べる時間も惜しんで、学級経営にあたっている。趣味も幅広く、函館マラソン出場に向け、心身の鍛錬を積んでいる。

**中林 秀子 (昭和四十八年卒)**  
常に優しい目配りと声かけて、子どもたちを見守る。算数タイム・ティーチングでは、学年全体で学ぼうとする雰囲気をつくり、いつでもどこでも誰にでも、丁寧に教えてくれる先生。分かった・できた喜びの声が中林先生を取りまわっている。算数好きな子が確実に増えています。

**須田 晃至 (昭和六十二年卒)**  
通称「須田のあにき」。諸先輩、同世代が多い中で「あにき」と呼ばれるだけあり、物静か？な中にもしっかりとしたポリシーをもち、頼りになる存在である(ただし、シラフの時に限る)。バレー少年団の監督としても活躍中。「しろ」をこよなく愛す愛犬家でもある。

**松田 ちあき (平成四年卒)**  
児童会担当。子どもと正面から向き合い、体当たりの指導を身上とする。荷物のおさは昭和一。(行商のおばちゃん、いやお姉さん?)常に大きな声でしゃべりまくる、秘密を作れない雰囲気醸し出す。昭和小のムードメーカーである。

カーである。

**井田 隆幸 (昭和六十一年卒)**  
教務担当、昭和小に革命をもたらすべく現れた「井田っち」。D51のように真っ黒になりながら邁進中。歌って踊れて、楽器もできる。工作・修理もお手のもの、オールマイティーな男である。運動も何でもこなすが、必ず足がつるといふ頑固な筋肉の持ち主である。

**福永 英丈 (平成三年卒)**  
大きな体に見合った広い心と明晰な頭脳をもち、全ての面で我が職場のリーダーオフマンです。ユーモアのセンスも抜群で、この人の周囲は笑いが絶えることがありません。博識家でもあり、特に食に対する造詣には並々ならぬものがあります。とにかく、頼りになる存在です。

**鈴木 真理子 (昭和六十三年卒)**  
本校に赴任して四年間、ずっと高学年の担任をしています。マシユマロのようなやわらかい心もち、いつも暖かな雰囲気を出しています。時々コケることがあります、それがまたチャーミングで、みんなをホッとさせてくれる、まさに癒し系の存在です。

**酒井 光史 (平成六年卒)**  
日常がそのままドラマになりそうな熱血教師です。ち密な教材研究と、真面目から子どもと向き合う姿勢は他の追随を許しません。休日返上し、陸上の指導にあたっています。でも、愛息の話題になるととたんに顔が緩み、デレデレの親バカぶりを発揮します。好感度トップの昭和小のプリンスです。

**佐々木 まき (昭和四十六年卒)**  
物事を計画的に進めることや、礼節を重んじることの大切さを身をもって教えてくださる、素敵な先輩教師です。現在、算数のTTとして各学級担任をバックアップしてくれています。健康に関する知識は並外れて豊富。某番組の捏造情報にも踊らされることはありませんでした。

函館市立戸井西小学校



本校は汐首小学校と小安小学校が統合され平成十年四月一日に設立された。

校舎は、昭和三十一年に完成されたもので、旧小安小学校の校舎をそのまま利用しているが、創立時に大規模な改修工事が行われ、より快適な教育環境となった。平屋の校舎が、どこことなく心をなごませ、子どもたちの清掃で、廊下は、いつもピカピカです。

校区は、本州に最も近い汐首岬、背後の釜谷富士と眼下の津軽海峡、そして遙かに望む津軽半島など、自然の景観は素晴らしく、また、夜間の漁火と浜部を照らす函館山の街の灯りは神秘的で山・川・海などの豊かな自然に恵まれた環境にある。

平成十八年度は、八学級・児童数九十五名・職員十三名と開校当時より多少児童数が減少済みである。「一人一人の考えを分かり合い、力を合わせて頑張る子」の重点教育目標をうけ、教職員のみならず、父母の教育的関心も高く、なにごとも協力的である。

子どもたちも、明るく、児童会活動・少年団活動・地域の諸活動など、ものおしせず生き生きと取り組んでいます。また、あいさつの声は、校舎中すれちがうたびに聞こえてきます。最後にコーマシヤル。十九年度は開校十周年にあたり、九月下旬に公開研を予定しています。ぜひ来校のほどを！

■会員紹介

高橋道夫(昭和四十五年卒)

学校のこと・地域のことをよく熟知。風ぼう以上に信頼厚く頼られる人柄。若手にも「びしっ」と言える重鎮。その雰囲気は、戸井西の黄門様?

辻口喜廣(昭和四十七年卒)

「おそろのべし...」と職員の言動に對しいつも賞賛。笑顔とダンディーさは、口調・歩き方など行動面も含めりーダー。

小原鉄雄(昭和四十八年卒)

城主を補佐し、もくもくと動くスタイルは、鉄のようにカタク、児童の前では綿のようにヤワク。味あり。

大岸均(昭和五十年卒)

年生に困っている子ならば、行つて支援してあげる。そんな者に私はならない。ニーズに応えるただの均先生。

明尾はるみ(昭和五十八年卒)

お若そうですが生徒指導部で、昨今の諸問題に八面六臂で対応は手早い。視野も広く発言・行動力は納得あり。

森脇和保(平成七年卒)

学級担任として、教務として、てきぱきと気配りしながらの言動が立派。昨年、少子化対策にも貢献です。

藤原友和(平成十二年卒)

研究部としての発想は、ドラえもののポケット。積極的な研修意欲すばい。ときおりハラハラする言動にカアツ!

久徳怜子(平成十四年卒)

各教科の指導時は「まるで体育のよう。」とある先生。常にエネルギーいっぱいが魅力で児童をひっぱるG T O。

女性ですが、あえて「とび〇」に?

函館市立木直小学校



本校は、明治十四年、旧南茅部町木直地区に開校しました。以来、本年度平成十九年三月をもって開校百二十五年、この間、平成十一年には古部小学校と統合しましたが、総計一九二〇名の卒業生を送り出すことになりました。

産業の中心は漁業で、七月から九月にかけて、真昆布やがごめ昆布が採取され、家族総出の仕事となります。また、養殖昆布漁家も多く、子どもの労働は貴重であり、夏休みは専ら昆布干しの手伝いに費やされます。

しかし、冬期間は、漁業従事者の約半数が本州方面へ出稼ぎに行っております。

そんな中で、保存会の方々が、伝統芸能「木直大正神楽」を児童に伝えようと、尽力してくださっております。現在の校舎は、昭和五十四年に建てられ、学級数は、複式学級一を含め、五学級、児童数六十五名、教職員数十名の規模です。

学校目標に、「考えを深め、広げる子」「心を豊かにし、高め合う子」「体をきたえ、やりぬく子」を掲げ、「自分らしさを発揮し、いきいきと表現できる子」を重点に、教育活動に取り組んでいます。

綿密な提案で研究部の運営を推進しています。また、学級経営・器楽合奏部等を通し、児童が納得する指導を心がけ、真摯に追究しています。

杉本友子(昭和四十六年卒)

教務として、見通しをもった教育活動が展開できるよう心がけています。

■会員紹介

西谷弘(昭和四十四年卒)

「教育は人なり」「人は人によって人となる」を経営の理念とし、児童の心を豊かに育てるため、児童理解の重要性を説き、教育環境づくりを中心に、情熱をもって経営にあたっています。

高橋政弘(昭和五十三年卒)

本校赴任一年目ですが、優しい心配りと、行動力で、職員室の雰囲気、話しやすく、あたたかいものにしてくださいます。

名和明(昭和四十七年卒)

事務官として、本校の教育活動を支えています。趣味は多才で、特に囲碁は五段の腕前、十一月の囲碁大会でみごと優勝しました。

高橋栄一(昭和五十三年卒)

生徒指導部を担当し、児童会・各種行事の運営を推進しています。また、絵を描くのが好きだという児童が多くなった背景として、楽しい指導があげられます。

佐々木章吾(昭和五十六年卒)

本校赴任一年目から、情報処理の面でリードしています。さらに、免許教科と趣味を生かし、昆虫を採集、その飼育活動を通して、児童に「生き物の命の営み」を実感できる場を創ってくださいました。

飯田奈穂子(平成四年卒)

綿密な提案で研究部の運営を推進しています。また、学級経営・器楽合奏部等を通し、児童が納得する指導を心がけ、真摯に追究しています。

杉本友子(昭和四十六年卒)

教務として、見通しをもった教育活動が展開できるよう心がけています。

函館市立亀田中学校



本校は昭和二十三年五月十日、鍛神・赤川・桔梗の各小学校を分校として授業を開始したのが始まりとなっています。昭和四十六年十一月一日、亀田市の市政施行後には、本校において亀田市成人式や国体予選相撲大会が行われるなど、地域の文化・スポーツの拠点としての役割を担ってきました。昭和四十八年十二月一日、亀田市が函館市と合併。本校も函館市立亀田中学校となり現在に至っています。校区は函館市の幹線道路である「産業道路」を横断し、北美原・石川・美原・神山・中道・富岡・昭和の一部からなり、広範囲となっています。校区には小学校が五校、高等学校も二校所在し

ています。

また、平成元年十月にはオーストラリア・レクマコーリー市モリセットハイスクールと姉妹校提携調印を交わし、交流の場を広げています。

本校は「めあてをもち、学びとる生徒」を教育目標とし、具体的な目標として「授業に集中しよう」「毎日家庭学習をしよう」と、基礎基本の定着や学力の向上を図っています。その中でも新たな取組として朝読書を導入しました。本に親しむ機会をもつとともに、集中力の持続を目的とした取組です。生徒からは「本を読む機会が増えた」「朝から集中して取り組めるようになった」という声が多く、落ち着いてしっかりと学習に取り組む環境作りに役立っています。

また、経営方針として「さわやかな歌声が響き合う魅力ある学校」を掲げ、今年で十七回目になる全校合唱集会は本校の「特色ある教育活動」になっています。この集会は全体の司会進行、発声練習、指揮・伴奏まで全て生徒が中心となつて行っています。今年度三回目の合唱集会を「北海道教育の日」の協賛事業として渡島合同庁舎一階道民ホールで実施し、庁舎の職員の方々や保護者・地域の皆様など、これまで以上に多くの方々に向けていただき、生徒たちはこれまでできない一体感・充実感を感じることができました。生徒会活動では、校地内清掃などのボランティア活動やあいさつ運動をはじめ、過ごしやすい学校の雰囲気作り

に努め、学校行事においても、生徒会が中心となつた活発な活動が見られます。その一つとして町内会との連携のもと、生徒手作りの年賀状を地域の高齢者へ送っています。この活動は、地域の方々に大変喜ばれており、たくさんのお返事をいただいております。

現在、十九学級、六百六十三名の在籍があり、生徒たちは校歌の中にしっかりと織り込まれている校訓「融合・開拓・自治」の精神のもと、生き生きと楽しい学校生活を送っています。

部活動では、サッカー・野球・陸上・男女バレー・男女バスケット・バドミントン・卓球・柔道・吹奏楽・合唱・演劇・美術・書道と多くの部をもち、生徒の活躍の場を広くとっており、爽やかに汗を流す姿が見られます。また、地域に開かれた学校として、体育館開放や合唱団への開放など、生き生きと活動する人々の息づかいが絶えない校舎でもあります。

学校職員は、校長、教頭、養護教諭、事務職員、用務員、栄養職員と総勢三十七名で構成されています。豊かな経験をもつたベテラン教員と活カみなぎる若い職員がそれぞれの持ち味を出し合い、お互いを高めていく姿勢が見られます。さらに親睦の輪を広めるためにコミュニケーションのみならず飲コミュニケーションのみにしてしています。学校の規模により、どうしても学年団での動きが主となりますが、「報告・連絡・相談」を心がけ、全教職員が一丸となって教育活動

に取り組んでいます。

夕陽会のメンバーは次の通り二十四名となっています。大学在籍時期は異なるものの、ともに同じキャンパスで過ごした仲間として、強い連帯感で結ばれています。これからも夕陽会の絆をいつまでも大切にしたいと思うと同時に、この夕陽会がますます発展していくことを心から願っています。

〈校長〉 本間 秀昭 (昭和四十六年卒)

〈教頭〉 高橋 登 (昭和五十三年卒)

〈教諭〉 長尾 祥子 (昭和四十七年卒)

浅井 庸子 (昭和四十八年卒)

塚田美穂子 (昭和五十三年卒)

米田 康子 (昭和五十四年卒)

佐々木 優 (昭和五十五年卒)

岩館こずえ (昭和五十七年卒)

子原 恵美 (昭和六十年卒)

浅井 善夫 (昭和六十年卒)

田上 直広 (昭和六十二年卒)

古俣みきお (昭和六十三年卒)

中村 功 (昭和六十三年卒)

増田晃一郎 (昭和六十三年卒)

石郷岡 卓 (平成元年卒)

坂本 学 (平成元年卒)

斉藤 明子 (平成六年卒)

澤田 康子 (平成八年卒)

瀧本 絵里 (平成八年卒)

島崎 裕子 (平成九年卒)

初山小夜子 (平成十二年卒)

葛西 猛 (平成十四年卒)

松浦 綾香 (平成十四年卒)

山田 好一 (平成十四年卒)

函館市立恵山中学校



平成十七年四月に東光中学校と尻岸内中学校が統合し、二年目を迎えた恵山中学校から七名の会員を紹介しします。

矢本 秀美 (昭和五十年卒)

今年度で二年目となる恵山中学校の校長先生です。

生徒との触れ合いを大切にし、毎朝生徒たちと玄関前であいさつを交わしています。昼休みに体育館で生徒と一緒に運動するなど、生徒からも慕われる校長先生です。

また、地域の声を大切にし、意見を取り入れながら、日々、本校の教育活動の充実、発展を考えています。

林 弘明 (昭和五十五年卒)

こちらも二年目となる恵山中学校の教頭先生です。常に私たちの様子を気遣っていて、何かあったときはいつも適切なアドバイスをしてくれます。

また、生徒にも明るく声をかけ、親しみやすい印象をもたれています。

野中 尚子 (平成十年卒)

今年度、港小学校から赴任してきました。毎日の英語の授業では、教室から生徒の元気な声が聞こえ、活発にコミュニケーション活動や暗唱等を行います。部活動でも副顧問として、経験のないバスケットボールを一生懸命勉強して、生徒とともに活動しています。

今年度、森小学校から赴任してきました。職員室にいないときは美術室にいたり、絵を描いたり、物作りをしたり、日々教材研究に励んでいます。

中村 英彦 (平成十一年卒)

また、新設された野球部の顧問として一年生八名とともに毎日汗を流し、一生懸命に取り組んでいます。

吉村 芳三 (平成十三年卒)

今年度、遠い天売島からはるばる恵山中学校に赴任してきました。書道の大家で、横一文字や立て看板、賞状の名前書き等々、非常に頼れる存在です。一年生の担任で、元気な一年生とともに毎日充実した学校生活を送っています。

今年度、遠い天売島からはるばる恵山中学校に赴任してきました。書道の大家で、横一文字や立て看板、賞状の名前書き等々、非常に頼れる存在です。一年生の担任で、元気な一年生とともに毎日充実した学校生活を送っています。

磯波 理恵 (平成十四年卒)

今年度、遠い天売島からはるばる恵山中学校に赴任してきました。書道の大家で、横一文字や立て看板、賞状の名前書き等々、非常に頼れる存在です。一年生の担任で、元気な一年生とともに毎日充実した学校生活を送っています。

磯波 理恵 (平成十四年卒)

今年度、遠い天売島からはるばる恵山中学校に赴任してきました。書道の大家で、横一文字や立て看板、賞状の名前書き等々、非常に頼れる存在です。一年生の担任で、元気な一年生とともに毎日充実した学校生活を送っています。

校舎を見下ろすように恵山がそびえ立ち、五月には、恵山の山一面にツツジが咲き誇ります。豊かな自然に囲まれた校舎です。

受賞祝賀会・会員懇親会



◎ 訃 報

冥福をお祈りいたします

- 佐々木 薫氏 昭5年卒平18年3月逝去
茶木 泰生氏 昭47年卒
石岡 靖造氏 昭28年卒
永山 実氏 昭19年卒
鈴木 智氏 昭24年卒
加藤 彬氏 昭11年卒
大湯 隆利氏 昭30年卒
永田 裕三氏 昭38年卒
八反田 稔氏 昭35年卒
鈴木 幸一氏 昭13年卒
齊藤 尊司氏 昭19年卒
細間 富弘氏 昭28年卒
二本柳常作氏 昭14年卒
辻 俊治氏 昭28年卒平19年2月逝去
奥野 留雄氏 昭22年卒 2月逝去

平成十八年度 函館市支部前納会員(順不同)

- 岩 佐正治氏(昭33年卒)
金 山正智氏(昭35年卒)
中 村絃司氏(昭38年卒)
大 釜節一氏(昭39年卒)
越 田喜忠氏(昭39年卒)
海 野源一郎氏(昭43年卒)
佐 藤毅男氏(昭43年卒)
塩 崎設彦氏(昭43年卒)
谷 口敏彦氏(昭43年卒)
谷 本薫彦氏(昭43年卒)
田 仲明子氏(昭43年卒)
道 幸義宏氏(昭43年卒)
松 谷秀彦氏(昭43年卒)
山 本俊秀氏(昭43年卒)
平 野優子氏(昭43年卒)
越 山洋二氏(昭43年卒)
高 山洋二氏(昭43年卒)
紺 井健一郎氏(昭44年卒)
布 目知治氏(昭44年卒)
茂 治氏(昭44年卒)

夕陽会函館市支部 会務報告

- 平成18年 支部役員会、監査会(あさひ小学校)
4月12日(水) 支部総会(函館市民会館)
15日(土) 支部役員会(支部長と幹事長が出席)
28日(金) 第4回本部役員会(支部長と幹事長が出席)
5月5日(金) 吉田 雄太先生(平成13年卒・旭岡小学校)ご結婚に祝意を表す
吉田 真知子先生(平成13年卒・旭岡小学校)ご結婚に祝意を表す
23日(火) 第5回本部役員会(支部長と幹事長が出席)
13日(土) 夕陽会渡島支部大懇親会・新会員歓迎会(三島副支部長が出席(法華クラブ))
6月1日(木) 第6回本部役員会並びに本部顧問・参与会議に支部長と幹事長が出席
17日(土) 全国支部長会議に支部長と幹事長が出席
24日(土) 大川富美男氏(昭和45年卒)第47回北海道書道展準大賞受賞に祝意を表す
28日(木) 高田 利夫氏(昭和14年卒)7月高齢者叙勲瑞宝双光章受賞に祝意を表す
7月11日(火) 金山 正智氏(昭和35年卒)函館市功労者表彰受賞に祝意を表す
19日(木) 尾島 倂介氏(昭和34年卒)日本バレーボール協会表彰受賞に祝意を表す
29日(土) 黒丸宗太郎氏(昭和14年卒)8月高齢者叙勲瑞宝双光章受賞に祝意を表す
8月19日(土) 道内支部幹事長会議(札幌)に幹事長が出席
9月2日(土) 鶴岡会渡島支部懇親会に支部

- 5日(火) 支部会報70号発行
9月7日(木) 筑田美穂子先生(平成12年卒・亀尾小中学校)ご結婚に祝意を表す
10月6日(金) 沼崎 孝男氏(昭和44年卒)北海道教育功績者表彰受賞に祝意を表す
11日(木) 清水ノリヒト氏(平成2年卒)のモダンダンス公演に協賛
13日(金) 第1回本部役員会(支部長と幹事長が出席)
11月9日(木) 中村 薫氏(昭和30年卒)函館市文化団体協議会白鳳章受賞に祝意を表す
大川富美男氏(昭和45年卒)函館市文化団体協議会青麒麟章受賞に祝意を表す
16日(木) 第1回夕陽会創立90周年記念行事・事業実行委員会に支部役員5名が出席
20日(月) 長田 洋幸先生(平成14年卒・榎法華中学校)ご結婚に祝意を表す
12月18日(月) 三浦佐和子氏(昭和59年卒・桐花中学校)教頭昇任に祝意を表す
平成19年 1月11日(木) 萬田 真一氏(昭和23年卒)函館音楽協会協賛受賞に祝意を表す
信田 誠氏(昭和35年卒)函館音楽協会協賛受賞に祝意を表す
15日(月) 第2回本部役員会(支部長と幹事長が出席)
16日(火) 樺野 人範氏(昭和60年卒)附属函館小学校 教頭昇任に祝意を表す
30日(火) 田口 純子氏(昭和33年卒)函館市スポーツ賞受賞に祝意を表す
2月10日(土) 渡島支部勇退者激励感謝の会に支部長が出席(法華クラブ)
14日(木) 支部顧問会議(ハーバービューホテル)
23日(金) 支部受賞祝賀会・会員懇親会(ハーバービューホテル)
3月15日(木) 支部会報発行71号

〔平成十九年度 予告〕

◎ 函館市支部総会

- 日時 四月十四日(土) 午前十時
会場 市民会館大会議室
①学校幹事は必ず出席してください。(不都合の場合は代理出席も可)
②学校幹事の他に以下の会員数の出席を加えて報告してください。
◇会員数九名以下の学校は、幹事その他に一名以上
◇会員数十名以上の学校は、幹事その他に二名以上

◎ 夕陽会本部総会・大懇親会

- 期 日 六月十六日(土)
会場 国際ホテル
本部総会 午後四時
大懇親会 午後五時三十分

事務局だより

支部会報第七十一号をお届けいたします。本会報の発行に際し、ご多忙な時期にもかかわらず、快く原稿をお寄せいただき誠にありがとうございます。深く感謝申し上げます。前納会員制度のご案内を、三月で退職される会員の皆様に差し上げております。便利なこの制度のご利用をお勧めいたします。(夕陽会函館市支部幹事長 津田英昭)

題字/あさひ小学校 大塚信夫氏(昭和50年卒)